

予習・授業・復習で「深い理解」を目指そう

—「深い理解」とは、学んだことを自分のことばで表現(説明)できること—

開倫塾

塾長 林明夫



Q 1 : 大学入試、高校入試、私立中入試、公立中高一貫校入試など、すべての入試で考える力(思考力)や、表現する(表現力)が問われる問題(論述型入試)が増えています。どうしたらよいとお考えですか。

A : 学校や学習塾・予備校で学ぶときには、「予習」をしっかり行い、「授業」をしっかり受け、「復習」もしっかり行って、「深い理解」を目指すことが大切です。

Q 2 : 「深い理解」とは何ですか。

A : (1) 学習院大学教授の篠ヶ谷圭太先生によれば、「深い理解」とは「自分の言葉で基本的な知識を説明できること」とされています。

(2) 学んだことを「自分のことばで説明できる」ことが、思考力や表現力を問う論述型の問題では欠かせません。

(3) また、大学や高校、中学校でレポートを書く場合に、インターネットやチャット GPT の「丸写し」では、すぐに見破られてしまい「0点」・「落第」となってしまいます。ですから、十分に勉強し、「自分のことばで説明・表現できる」までに「理解を深める」ことが求められます。



Q 3 : では、どのようにしたら「自分のことばで表現・説明できる」まで、「深い理解」を得ることが出来ますか。

A : (1) 篠ヶ谷先生は、「予習」「授業」「復習」にしっかり取り組むことが大切とおっしゃっています。「その通り」と考えます。

(2) 学ぶ内容、つまり、授業の内容が難しく・複雑になればなるほど、学校や開倫塾・予備校の授業の前に、その日の「予習」をしっかり行うことが大事です。



(3) 予習を行い、「何を新しく学ぶのか」「今まで学んだことと、どうつながっているのか」「わからないことは何か」などを事前に「知ること」です。時間があれば、テキストの一語一語、一行一行を正確に読み解き、どのような意味か考える。よく意味のわからない語句があったら辞書や用語集で調べ、調べたことはノートに書き写す。計算や問題は、ノートに解く。そして、何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むこと。これが「予習」の意味です。

○このようなやり方で、次の学年や、次の学期の「予習」を、その「学年」「学期」の始まる前に一教科でも多く済ませて、新学年・新学期に臨むことをおすすめします。

Q 4 : 「授業」はどのように受けたらよいのですか。

A : (1) 手を机の上に置き、先生の口元を見て、一語一句聞き逃さないよう、しっかり真剣に聴く。必要なこと・大切なことはすべて「ノート」に取る。(大切なことをノートに取ることができるのは、高度な言語能力です)



(2) 「予習」をしていて、よくわからなかったことは、注意深く先生のお話をお聴きする。

(3) それでもわからなければ、授業中、または、授業後に先生に質問をさせて頂き、「理解を深める」ことです。

Q 5 : 「深い理解」を得るには、どのように「復習」をすればよいのですか。そもそも「復習」とは何ですか。

A : (1) 「予習」をし、「授業」を受けた内容を「テキストや授業ノートを用いて一語一語、一文一文、もう一度ていねいに学び直すこと」。「計算」や「問題」はすべて「解き直すこと」。これが「復習」です。

(2) 「復習」をしていて、よくわからない「語句」や「文章」「内容」「計算や問題」があったら、「徹底的」に調べる。「調べた内容」は「ノート」に書き写す。そして、「なぜそうなるのか」を考える。これが「復習」です。

(3) 「ノート」は、後で勉強しやすいように「ノート整理」をする。「番号」をつけたり、大切なところは線で囲ったり、下線を引いたりする。マーカーでカラーリング、お気に入りのシールをはるのも「ノート整理」です。特に大切なところや、よくわからないところには、「教科書」や「ノート」に、印をつけておくことも大切な「復習」です。

○このようにして学んだ「テキスト」や「ノート」を繰り返し読み直すと、「深い理解」が得られます。学んだことを、自分のことばで言い表す(説明する)ことができるようになります。

Q 6 : 友達と話し合ったり、教え合ったりすること、ディスカッションやグループワーク、グループ発表やレポート提出も「深い理解」には役立つのですか。



A : (1) その通りです。小学校や中学校の「調べ学習」、高校の「探究型学習」、大学の「アクティブラーニング」などで一番役に立つのが、「学んだことを自分のことばで言い表す(説明する)ことができる」という意味での「深い理解」です。

(2) 「予習・授業・復習」をしっかり行い、「深い理解」を目指してくださいね。

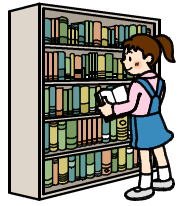
(3) 「深い理解」ができれば、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の3つの練習「定着のための三大練習」をしっかり行い、知識を更に確かなものにしましょう。

Q 7 : 学習塾・予備校・私立学校の幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A : (1) 思考力・表現力を問う「探究型入試」が大学・高校・中学入試の潮流となり、「調べ学習」「探究型学習」「アクティブラーニング」が小中高大学の授業で大幅に取り入れられた現在、「深い理解」に基づき、「学んだことを自分のことばで表現(説明できる)」までにすることは、「緊急課題」といえます。

(2)「深い理解」を目指す「予習」「復習」の仕方を授業の最初の 5 分、最後の 10 分を用いて、時々でもよいですから具体的にご指導ください。

(3)この「予習・授業・復習」による「深い理解」に加え、「辞書・新聞・読書・図書館」の活用による「読解力」が備われば、医学部医学科・東大・慶大・早大など難関大学、難関高校、難関中学入試への合格可能性が一気に上昇します。



Q 8 : 最後一言どうぞ。

A : 今月も僭越ながら、先生方がお読みになれば参考になる本を何冊かご紹介させていただきます。

(1)一冊目は、本文でもご紹介させて頂いた学習院大学教授の篠ヶ谷圭太著「使える！予習と復習の勉強法—自主学習の心理学」ちくま書新書、筑摩書房 2024 年 3 月 10 日刊です。先月ご紹介させて頂いた、同著「予習の科学—『深い理解』につなげる家庭学習」図書文化社 2022 年 7 月 24 日刊は、先生用テキストです。この「ちくま新書」は学習者用テキストです。是非、二冊をお読みください。

(2)二冊目は、サラ・バイクウェル著「実存主義者のカフェにて—自由と存在とアプリコットカクテルを」紀伊国屋書店 2024 年 4 月 11 日刊です。サルトル、ポーボワール、カミュ、ハイデガー、フッサール、ヤスパース、アーレントなどとパリや各地のカフェで実存主義について語り合う仲間に入ったようで、とても勉強になる一冊です。

(3)三冊目は、ハンナ・アーレント著「政治とは何か」岩波書店 2004 年 4 月 27 日刊です。二冊目の「実存主義」の次に読むと面白さ 100 倍です。

(4)四冊目は、大塚久雄著「共同体の基礎理論」岩波現代文庫 2000 年 1 月 14 日刊です。混迷を深める現代社会を読み解く、基本テキスト。

(5)五冊目は、磯井純充著「『まちライブラリー』の研究—「個」が主役になれる社会的資本づくり」みすず書房、2024 年 2 月 1 日刊です。フィンランドには「街角図書館」が各街のいたるところにあり、自分の蔵書を地域のために開放していたことを、本書で読んで、思い起こしました。

(6)六冊目は、清少納言「枕草子(上・下)」角川日本古典文庫、角川書店 1979 年 8 月 20 日刊です。NHK 大河ドラマ「光る君へ」といっしょに、これから半年かけて読み切るのも一興。是非、チャレンジを!!

— 2024 年 5 月 12 日記 —

